

第1000回教育委員会（定例会）会議録

公開

1 日時場所

平成24年1月25日（水） 午後2時
県庁教育委員会室

2 出席者

委員：栗田委員長、外山委員、吉川委員、阿部委員、北村委員、武藤委員（教育長）
事務局：草間教育次長、関谷教育次長、佐藤総務課長、小林財務課長、佐野福利課長、早川義務教育課長、轡田高等学校教育課長、三林生涯学習推進課長、島文化行政課長、茂木保健体育課長、企画主幹、総務・財務・福利・義務教育・高等学校教育・生涯学習推進・文化行政・保健体育各課長補佐、総務課総務班主査

3 開 会

午後2時

4 議事日程の承認

第1000回教育委員会の議事日程及び議事順序について承認した。

5 会議録（公開分）の承認について

第999回教育委員会（定例会）会議録（公開分）を承認した。

6 報告

（1）公立小学校教頭の人事異動について

事務局から、平成24年1月1日付けで公立小学校教頭1名の人事異動を行った旨報告があった。

7 その他

（1）障害者雇用アクションプランの改定について

事務局から、平成23年12月に計画期間を終えた前プランを改定し、引き続き障害者雇用の促進を図る旨報告があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

北村委員

障害を持つ方が教員になる場合、教員免許は一般と同じものか。

武藤教育長

免許状は同じである。障害をお持ちの方の場合、選考検査時に体育実技を免除したり、年齢制限を撤廃するなど一定の配慮をしているが、そもそも教員養成大学進学者が少ない実態がある。中長期的な取組として、まず教員免許状を取得するよう勧奨していくことか

ら始める必要がある。現在のように教員以外の部分で非常勤職員として採用するだけでは2%という目標の達成は難しい。

栗田委員長

アクションプランの中に、特別支援学校高等部の就職対策と連携して非常勤職員として雇用するとあるが、これも雇用率にカウントできるのか。

武藤教育長

カウントできる。特別支援学校の卒業生をその学校の非常勤職員に雇用した例があるが、本当に良くやってくれている。また、在校生の励みにもなっている。こうした取組は今後も増やしていきたい。

栗田委員長

特別支援学校を視察した際、そうした職員の方が勤務されているところを見させてもらった。実際に生徒達の励みになっていると感じた。今後もこうした取組に力を入れてほしい。

外山委員

現在の雇用率1.5%は、実数にするとどのくらいか。

佐藤総務課長

延べ199人であり、目標の2%を達成するためには66人不足する状況である。なお、教員の部分では免許の関係もあり雇用率は低いですが、事務局や特別支援学校など教員以外の部分では4%を超えている状況である。

外山委員

先ほどの教育長の話にもあったが、教員の部分を増やすには、まず教員養成大学に進学する方を増やす必要がある。国をあげて取り組む必要がある。

(2) 平成24年度中高一貫教育校の入学者選抜志願状況について

事務局から、県立中学校及び県立中等教育学校における平成24年度入学者選抜の実施状況について報告があった。

なお、次のとおり質疑、意見等があった。

阿部委員

ほとんどの学校で志願者が減少している。これまでのやり方ではさらに定員割れが進むと思われるが、どのように考えているか。

轡田高等学校教育課長

直江津中等教育学校の一人勝ちで、その他は全面的に少なくなっているという指摘だと思う。各学校の取組を明確に周知し、学校の顔をきちっと見せていくことが必要と思う。また、成果、実績についてもアピールしていかなければならない。今後もこうしたことを各学校に示していきたい。

外山委員

選ばれた人や特別な人だけが受けるのではなく、より多くの人気が

軽に受けられるよう、中等教育学校の位置付けや在り方を各学校や地域に浸透させる必要がある。現状では志願者が少ないため、不合格はまれであり大変目立つ状況。こうしたことも志願者が減る原因の一つかもしれない。

武藤教育長

落ちると気の毒だから、先生が子ども達のことを思って受けさせないような状況があるのかもしれない。学校の進路指導で特に手を加えなければ、直江津中等くらいの倍率になって当たり前と思う。子ども達を傷つけないという意識が強すぎるように思う。

轡田高等学校教育課長

地域に中等教育学校ができることによって、その地域の中学校も活性化し、子どもからすれば学校を選べる状態になっている。これは切磋琢磨、競争だと考えている。地域や保護者、子ども達だけではなく、小学校の先生方に対しても中等教育学校の良い所を示していかなければならない。

阿部委員

市町村立学校である小中学校と県立学校である中等教育学校の間には高い壁があり、中等教育学校の校長先生の努力だけでは限界がある。中等教育学校の校長先生と小学校の校長先生が議論する場を県教委が設けるなど工夫できないか。

轡田高等学校教育課長

中等教育学校の校長を集め、各校の取組状況を情報交換する機会を年2回設けている。こうした取組を更に進めていきたい。

吉川委員

保護者側が中等教育学校をどのように見ているか意見を聞いたことがあるが、それによれば、「6年間一貫して大変熱心に教育してくれて、水準も高く良いのだが、高校受験をさせないことは、子どもを甘やかすことになるのではないか」、「中学3年間はレベルが高く良いが、大学進学のことを考えると高校は別の学校に行かせたい」という内容だった。途中で転学したいという希望に対して、学校側ではそれを抑えにかかるところもあるようだ。一貫教育の主旨にはもとるかもしれないが、学校側が途中の転学など若干の流動性があってもよいというスタンスで臨めば、「それならば行かせてみようか」というように、保護者側の反応も変わってくるのではないかと思う。

武藤教育長

6年間を通じた中高一貫教育ということを特色として始めた学校であるので、安易な理由で転学を認めることはできない。こうしたことが理由で現在の倍率になっているのだとすれば、それもよしとしなければならないが、進路指導の面で何らかの意向が加わって、1倍に近い倍率になっているのではないかと感じている。

阿部委員

落ちこぼれが出る、進路によって生徒間に温度差が出て学級経営がうまくいかない等マイナス面ばかりが強調され、6年間かけて人間形成をして大学に行かせようという大きなプラスの部分が忘れられている。中等教育学校のプラスの面をしっかりと見てもらわなければならない。

栗田委員長

志願者数の問題については、まだまだ検討しなければならない部分も多々あると思いますが、担当課でもう一度よく検討してください。

(3) 平成23年度新潟県児童生徒体力テストの結果について

事務局から、児童生徒体力テストの結果概要について報告があった。

以上で、公開分の日程を終了した。

第1000回教育委員会（定例会）会議結果

非公開

8 公開分に引き続き、非公開と決定した議事に入った。

9 会議録（非公開分）の承認について

第999回教育委員会（定例会）会議録（非公開分）を承認した。

10 議案審議

第58号議案 平成24年度当初予算について

事務局から、平成24年度当初予算を2月県議会に提案したい旨説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第59号議案 新潟県立学校条例の一部改正について

事務局から、当該条例の一部改正案を2月県議会に提案したい旨説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第60号議案 新潟県立図書館協議会設置条例の一部改正について

事務局から、図書館法の一部改正に伴う当該条例の一部改正案を2月県議会に提案したい旨説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第61号議案 新潟県立近代美術館協議会条例の一部改正について

事務局から、博物館法の一部改正に伴う当該条例の一部改正案を2月県議会に提案したい旨説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第62号議案 新潟県埋蔵文化財センターの指定管理者の指定について

事務局から、新潟県埋蔵文化財センターの管理運営に係る指定管理者の指定について説明があり、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第63号議案 教職員の人事措置について

上越地方中学校女性教諭の交通加害事故に係る人事措置（減給1月）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第64号議案 教職員の人事措置について

中越地方小学校女性教諭の交通加害事故に係る人事措置（戒告）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第65号議案 教職員の人事措置について

下越地方小学校男性教頭の交通加害事故に係る人事措置（減給1月）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

第66号議案 教職員の人事措置について

下越地方高等学校男性教諭の体罰に係る人事措置（戒告）について、審議の結果、全員異議なく原案どおり可決した。

11 その他

（４）教育行政上の諸課題について

意見交換された事項は、特になかった。

12 閉会

午後 3 時 2 5 分